

ウエイ ラ ミン テイエン

# 为了明天

明日のために

**子どもたちに希望を 人々に友情を**

特定非営利活動法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

<http://www.sokeirei.org>

## 「温故知新」の精神で、さらに交流を深めよう！

### —JCC新体制発足を迎えて—

代表理事 諏訪 きぬ

新樹・若葉に萌える山々は、まさに「山笑う」やわらかな風情に包まれています。須藤副代表の3回忌を直前にした2月の第6回総会で、久保田代表、山下副代表が同時に辞意を表明され、ここまで平穩に歩みを進めてきたJCCにも一つの「転機」が訪れました。総会では、諏訪を代表理事に、井上(留任)、川崎を副代表に選出し、新体制を整えて船出をいたしました。その特徴は、3代表の平均年齢が「10歳」ほど若返ったことでしょうか？

この「若返り」の意味するところを、JCCのこれまでとこれからに当てはめてみると、若干スイッチを切り替える必要があるように思われます。これまでJCCの活動は、第2次世界大戦におけるわが国の蹂躪行為への贖罪の気持ちをもつ方々によって、支えられてきました。

しかし、JCCのこれからの課題は、中国という「となりの大国」に、必ずしも好感を抱いていないわが国の若い世代に、隣国への関心を呼び起こし、日本を飲み込みかねないそのパワーの凄さを感じ取ってもらうこと、その実感を基に、どのような関係をとっていくのがよいか、それぞれの立ち位置から考えてもらうこと、そんな機会を多く設けること、なのではないでしょうか？ そのためには、温故知新の精神を大切にして、JCCの今までの活動を引き継ぎつつ、新しさを求めていく姿勢が求められます。



中国は大きな国ですから、「私の中の中国」像を形作るだけでも大変なことです。最近起きたいくつかの事件—例えば「農薬入りぎょうぎ事件」や「チベット暴動」「オリンピック聖火妨害事件」も、国際的関係においては、経済的問題、政治的問題、歴史的な問題として波及しています。そうした複雑な関係性を超えて、「草の根」的に相互の信頼感を醸成する上で効果的なのは、中国人の「知人」「友人」をもつことでしょうか。この3年間、上海での高級幼稚園教師のキャリアをもつ董丹犁さんと仕事をともにできたことは、私にとっても貴重な体験となりました。

「歴史5千年」を誇る中国は、多様であるがゆえに、裕福さと貧困の格差も大きく、著しい経済発展にもかかわらず、他国の支援を仰ぐという国内的矛盾を抱えています。3月2日にNHKが放映した「NHKスペシャル 激流中国 上海から先生がやってきた～貧困の村で～」は、都会の若者たちによる貧困地域支援プロジェクトに参加した女子学生の日を通して、寧夏回族自治区西吉県の貧しい農村の高校生たちの、想像を絶する貧しい暮らしぶりを伝えていました。JCCがこれまで取り組んできた「貧困地区」支援に軸足を置きつつ、これからは教育・保育・歴史等を介して、文化交流にも力を注いで行きたいと思えます。みなさまのお力添えを心よりお願いいたします。

## 第6回 総会報告

### 2008年度の支援プロジェクト

2007年度の事業は全国各地の支援者の皆様のお力添えによって順調に実施されました。今年度も教育・母子保健支援のプロジェクトに取り組めます。引き続きのご支援の程、よろしくお願いいたします。

河北省易県の小学校に図書セット寄贈	40万円 (5セット)
河北省易件の中学校に「机とイス」補充支援	45万円 (400人分)
内陸貧困地区の学校建設	300万円
幼児教育への整備充実支援	50万円
貴州省三棵樹鎮衛生院母子保健センターへの 必要とされる物品等の支援	5万円

### 2007年度収支計算書

2007年1月1日から2007年12月31日

科 目	金 額		
	内 訳	期中小計	期中合計
<b>収入の部</b>			
I 寄付金収入合計			6,448,000
正・維持会費		1,167,000	
プロジェクト寄付		4,609,000	
幼児教育支援事業	5,000		
母子保健事業	102,000		
奨学金・校舎設備事業	4,284,000		
図書セット寄贈事業	218,000		
カンパ		672,000	
II その他の収入合計			40,673
中国への理解を深める為の活動		35,000	
中国講座	35,000		
預金利息		5,673	
<b>当期収入合計</b>			<b>6,488,673</b>
<b>収支差額繰越金</b>			<b>3,481,850</b>
<b>当期収入合計</b>			<b>9,970,523</b>
<b>支出の部</b>			
I 事業支出の部		5,255,617	
幼児教育事業	19,661		
母子保健支援事業	70,000		
教育支援事業	4,720,000		
図書セット寄贈事業	445,956		
II その他の支出		136,700	
中国講座	136,700		
III 運営費の部		1,447,921	
振替口座加入者負担	27,000		
事務室管理料	264,120		
水道光熱費	70,147		
旅費交通費	3,620		
通信費	243,593		
広報活動費	300,770		
会議費	19,375		
国際交流費	158,412		
消耗品費	103,068		
海外送金料	37,500		
コピー機リース料	148,680		
原価償却費	52,526		
雑費	19,110		
<b>当期支出合計</b>			<b>6,840,238</b>
<b>収支差額次期繰越金</b>			<b>3,130,285</b>
<b>当期支出合計</b>			<b>9,970,523</b>

### 2007年度事業経過報告

2007年1月1日から2007年12月31日

プロジェクト内容	前期繰越	当期募金額	当期実施額	現在積立額
幼児教育	559,000	5,000	19,661	544,339
母子保健	0	102,000	70,000	32,000
教育支援				
寄宿舎の増改築	0	3,000,000	3,000,000	0
奨学金 (LC)	0	720,000	720,000	0
奨学金			550,000	0
「机と椅子」寄贈	271,380	564,000	450,000	0
小 計	271,380	4,284,000	4,720,000	0
図書セット寄贈	46,000	218,000	445,956	0
総 計	876,380	4,609,000	5,255,617	576,339

### 第4期 (2008・2009年度) 役員及び理事

〔顧問〕	小坂哲瑯	久保田文次
〔監事〕	木村良夫	堀越信子
〔理事〕	井岡今日子	井岡 健 磯貝光子
	○井上睦子	牛久保浩法 大久保千芳
	○川崎高志	久保田博子 小林敦子
	齊藤竹子	清水 治 ◎諏訪きぬ
	中江 勁	三浦 克 山下知子

※ ◎は代表理事 ○は副代表理事

## 故柳田節子さんの 日中友好への思いを記念して建碑

—河北省易県白馬中学寄宿舎の側—



昨年12月、柳田節子さん遺贈の300万円を主要基金として新改築された白馬中学寄宿舎の側に、故柳田節子さんを記念する石碑が建てられました。

2006年に柳田さんが急逝されてから2年目を迎えるようとしています。2001年に初めて柳田奨学金を受給した易県の女子中学生の多くはすでに高校(高中)や職業学校に進み、幾人かはさらに進学しています。柳田奨学金を各3年間受給した100人の次代を担う女性たちは、彼女たちの人生の節々で「日本の柳田奶奶(おばあさま)」に励まされて希望を抱いた日々のことを思い出すでしょう。

また、旧校舎を改修・増築して建設された白馬中学寄宿舎には、厨房・暖房設備・250床の鉄製ベッド・トイレ(国家基準)・洗面所等が新設されました。

宋慶齡基金会 JCCは、易県内の他の小中学校に対すると同じように、この白馬中学にも図書セットや「机と椅子」の寄贈を実施しています。

私が最初に白馬中学を訪問したのは、2004年6月でした。当時は、老朽化した平屋建ての校舎で、文字通り「何もない」学校で、校長先生が「県政府から出る教材費は用紙とチョークを買えば、それで終わりです」と言っておられたことを思い出すと、三校合併の中心校となり、校舎が新築されたことによる白馬中学のこの三年間における変貌には目を見張るものがあります。

やがて発展が内実を育み、品格のある勉学の場となることを期待してやみません。その時、宋慶齡基金会 JCCは、支援者の皆様とともに未来のための一翼を担えた事を喜びたいと思います。

(久保田博子)

# 在日中国人の現在

## —— 日中間の人の移動を考える

田嶋 淳子 (法政大学社会学部)



中国講座 第11回  
在日中国人の現在  
日中間の移動を考える  
講師 田嶋淳子さん  
法政大学社会学部教授

在日中国人社会はこの35年で様相が大きく変化している。日中間の人的交流においては1972年の日中国交回復と1979年以降の経済改革、対外開放政策の実施が交流を促進する方向で、中国から日本への人の流れを作り出した。在日中国人社会を構成する人々は戦前戦後を通じて日本社会に暮らす老華僑・華人と、72年以降に来日した中国系ニューカマーだが、その出身階層、学歴、出身地域等は大きく異なり、そのネットワークは必ずしもつながっていない。現状からいえば、居住地域でさえ、ほとんど重ならない。2005年末現在で、中国からの年間の入国者数は78万人、中国人登録者数は約52万人にのぼる。

こうした拡大をもたらした一つの大きな要因は日本政府による留学生10万人計画である。公費公派での留学組の受け入れを先駆けとし、1986年2月の「中華人民共和国公民出境入境管理法」の施行をうけて、1980年代後半には私的な理由による出国者が就学生として大量に来日する。その結果、一部に混乱は生じたものの、年間2万人前後の青年たちが日本を目指した。その多くは自らの社会的ネットワークをたどって東京のインナーシティである新宿、豊島、中野、北区などに居住した。同郷、同業、同窓を基盤とする社会的ネットワークはその後彼らの生活、就労面での資源として生活基盤を作り上げる手がかりとなった。この時期に来日した人々はその後の天安門事件により、当初の一時滞在志向から滞在の長期化を選択していく。そして、在日中国人社会の新たな基盤を作り上げていくことになったのである。彼らの多くは日本での就職、結婚を選択することで、とりあえずの在留資格を確保したが、一部には移民国家である第三国（アメリカ、カナダ、オーストラリア）を目指した人々もいる。

さらに、後から来日する中国人を対象とするエスニック・ビジネスやエスニック・メディアを起業して、経営者になる人々も徐々に増加していった。当初は上海、福建、北京出身者がその中心であり、これら団塊としての中国系ニューカマーたちは滞日10年を越える1998年以降、永住資格や日本国籍を取得していった。

日本での永住資格取得は生活基盤の安定と定住化傾向（住宅の取得など）を促したが、エスニック・ビジネスなどの経営者に関していえば、母国への投資の契機ともなっている。彼らは自らの文化資本や社会的資本を利用し、母国での事業拡大を進めている。彼らの生活は情報や交通手段の発達により、母国との日常的な接触、往来が可能な状況にある。その生活はトランスナショナルな様相を示し、送り出し、受け入れのいずれの社会にも彼らは生活の拠点をもつことが可能となっている。彼ら在日中国人の現在は日本社会にのみ向けられているわけではない。むしろ、母国にもあるいは彼らのネットワークがつながるそれ以外のグローバルな地域にもひろがりをもつものである。

また、2000年以降、IT関連の技術者、研修生・実習生の増加とともに、在日中国人社会は新たな段階へと入っている。特に、この5年来東北三省出身者が増加傾向にある。在日中国人が在日韓国・朝鮮人を上回り、日本社会における外国人人口第一位を占めるのも時間の問題であろう。

2007年

- 10月21日 第16回理事会2007年度上半期の事業・財務経過報告ほか  
中国宋慶齡基金会より07年度奨学金受給者名簿届く  
河北省易県白馬中学寄宿舎建設支援における付設工事(洗面所・トイレ・柳田記念碑等)
- 10月22日 中国宋慶齡基金会に送金135万円:  
①内蒙古自治区蒙族小学校児童奨学金  
②吉林省永吉県第7中学生奨学金  
③白馬中学寄宿舎建設支援第2次送金
- 11月 3日 第11回JCC中国講座:田嶋淳子氏「在日中国人の現在一日中間の人の移動を考える」
- 11月12日 中国宋慶齡基金会訪日取材団来日  
11/13 宮崎家取材、歓迎夕食会  
11/14 宮崎家取材、小坂家訪問  
11/17 神戸孫文記念館訪問
- 12月 3日 中国宋慶齡基金会に送金36万円:寧夏師範学院奨学金
- 12月 9日 第17回理事会:2008年度事業計画・収支予算について  
・08/10/10開催予定の「劉薇ヴァイオリンコンサート」企画  
・忘年懇親会(JCC事務所)

2008年

- 1月 7日 仕事始め:07年度決算及び監査  
1月15日 劉薇さんとコンサート企画の打合せ  
1月19日 第51回事務局会議:08年度行事日程ほか  
1月26日 中国宋慶齡基金会よりEMS:蒙族小学校奨学金領収書ほか



- 2月 4日 中国宋慶齡基金会よりEMS:河北省易県教育支援項目別領収書
- 2月 6日 第6回総会議案書発送
- 2月11日 会計監査
- 2月17日 ○第18回理事会  
○第6回総会開催:2007年度事業・財務報告、監査報告、2008年度事業計画・収支予算等承認/第4期(08・09年度)役員の選任  
○第19回理事会:正副代表理事選任、顧問の委嘱
- 2月18日 王丹さん来訪
- 2月22日 中国宋慶齡基金会よりEMS:寧夏師範学院・吉林省永吉第7中学奨学金領収書・報告書
- 2月25日 京友会総会に出席:教育支援関係報告
- 3月 1日 事務引継ぎ関係会議
- 3月22日 第52回事務局会議:08年度事業実施について
- 3月24日 上海市対外人民友好協会代表団来日:小坂哲郎・文乃両氏と会谈  
・宋慶齡基金会JCCに対して、本年10月上海市で開催予定の日中平和友好条約締結30周年記念「孫中山と梅屋庄吉関係史料展」(仮題)への協力を要請
- 3月28日～4月2日 東京都庁に年度末報告書類提出、東京法務局八王子支部に基本財産・役員変更等関係登記
- 4月19日 第53回事務局会議:劉薇ヴァイオリンコンサート準備開始
- 5月 5日 “為了明天”第15号発行

## 第12回 JCC中国講座

### 北京オリンピック前の中国

講師:朱建栄さん 東洋学園大学教授

今の中国社会は東京五輪前の日本によく似ている。経済高度成長で社会構造にも地殻変動をもたらし、5億人以上の中間層は今、中国の「オピニオンリーダー」となっている。8万7千件の騒乱事件も、格差問題も、食品安全問題も中国社会の急速な変化を示すもので、新しい視点が必要である。この講座で中国問題に関する内からの視点を提供したい。

日時 2008年5月24日(土) 14:00～16:00

場所 八王子労政会館ホール(参加費500円)

八王子市明神町3-1-5 TEL 042-645-7451

主催: NPO法人宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会  
問合せ: TEL & FAX 042-646-4210

## リユウ ヲウエイ 劉薇 ヴァイオリンコンサート

2008年10月10日(金)

18:30開場 19:00開演

八王子市芸術文化会館  
(いちようホール)小ホール

前売券 3000円  
(ペア券5000円)

当日券 3500円

※チケット販売開始 5月24日



主催: NPO法人宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会  
チケット申し込み・問合せは: TEL & FAX 042-646-4210

## 編集後記

みどり! 緑! まさに萌え上がる命、燃えるような自然のエネルギーに圧倒される日々、毎朝窓を開いて深呼吸をする。オリンピックをめざす若いアスリート達のパワーにも感動し、世界平和を希い、かつ誓うオリンピックの成功を心から祈念し、楽しみにしている。様々なできごとを超えて一層、和平友好と辺地の支援をつづけたい。全国の皆様、よろしくお願ひいたします。(三浦)

## 「為了明天」No.15

2008年5月5日発行

題字: 周肖

編集: 三浦・井上

発行者:

NPO法人宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会  
代表理事 諏訪きぬ

〒192-0904 東京都八王子市子安町1-43-6-206  
TEL/FAX 042-646-4210

郵便振替:00170-2-152423

三菱東京UFJ銀行八王子支店(普通)4731623